

2025年7月9日
公益財団法人イオン環境財団

**みどり豊かな沿岸部の再生を目指してマングローブ1,000本を植樹
7月19日(土)第1回「インドネシア タンゲラン植樹」を実施**

公益財団法人イオン環境財団（理事長 岡田元也 イオン株式会社取締役兼代表執行役会長以下 当財団）は、インドネシア バンテン州タンゲラン県マウク地区 タマンマングローブケタパンにおいて、第1回「インドネシア タンゲラン植樹」を実施します。

当財団は、インドネシアにて2011年から植樹活動を行っています。ジャカルタでは周辺住宅地や高速道路を洪水などの災害から守るとともに、みどり豊かな沿岸部の再生を目指して2011年から2024年までに計6回実施し、これまでにインドネシア・日本両国のボランティアの皆さまのべ8,100名と94,000本を植樹しました。植樹地では木々が成長し、生物多様性あふれる森が形成されつつあります。

本年は、海岸の変化が発生し環境への影響が懸念されているタンゲラン県マウク地区で実施します。住宅地への浸水を防ぎ環境を改善することを目的とし、当日はインドネシアのボランティア200名の皆さまと1,000本のマングローブを植える予定です。

当財団は、豊かな自然を次代に引き継ぐため、これからも植樹活動をはじめとする環境活動に積極的に取り組んでまいります。

記

日 時	2025年7月19日(土) 7:30~9:00		
場 所	インドネシア バンテン州タンゲラン県マウク地区タマンマングローブケタパン		
本 数	1,000本		
参加者	200名		
樹 種	マングローブ		
主 催	公益財団法人イオン環境財団 イオンインドネシア		
出席者	バンテン州	州知事	アンドラ・ソニ 様
(予定)	バンテン州警察	本部長	スユディ・アリオ・セト 様
	タンゲラン県	県知事	モハマド・マエシャル・ラシッド 様
	タンゲラン警察	署 長	ザイン・ドウィ・ヌグロホ 様
	タンゲラン軍管区 0506	司令官 中佐	アリ・ストウルスノ 様
	エリム・サリム研究所	社 長	E・クルニアワン・パドマ 様
	イオンインドネシア	取締役	奥嶋 収
	イオンクレジットサービスインドネシア	社 長	檜林 靖規
	イオンモールインドネシア	社 長	木村 徹哉
	イオンファンタジーインドネシア	社 長	川嶋 美紀
	イオンディライトインドネシア	社 長	指江 正敏

以上



(2017年植樹地)



(2024年植樹地)



ご参考

【公益財団法人イオン環境財団】

「お客さまを原点に平和を追求し、人間を尊重し、地域社会に貢献する」というイオンの基本理念のもと、岡田卓也（イオン株式会社名誉会長相談役）により日本で初めて地球環境をテーマにした企業単独の財団法人として、1990年に設立されました。以来、多様なステークホルダーの皆さまとともに「植樹」「助成」「環境教育・共同研究」「顕彰」の4つの事業を中心に活動に取り組んでいます。現在は、持続可能な地域の実現を目的に新たな里山づくりにも取り組んでいます。

【植樹活動】

国内外の地域行政と協力し、自然災害や伐採などで変化した森の再生を目的に、中国万里の長城などアジアを中心に世界各地のボランティアの皆さまとともに植樹活動を継続実施してまいりました。1991年からのイオン全体の植樹の累計本数は、1,276万本を超えています。（2025年2月末時点）

【インドネシアにおける取り組み】

■植樹事業

【第1期ジャカルタ植樹2011年～2013年】

元インドネシア人口環境大臣エミル・サリム博士の「生物多様性みどり賞(国際賞)」受賞を契機として、都市部の防災林の再生を開始しました。3年間でのべ5,000名が参加し63,000本のマングローブを植樹しました。

【第2期ジャカルタ植樹2018年～2024年】

2024年までに、のべ3,100名が参加し31,000本のマングローブを植えました。



第1期第1回植樹(2011年)

■環境教育・共同研究事業

【アジア学生交流環境フォーラム (ASEP)】 (※)

(2012年～2022年)

グローバルなステージで活躍する環境分野の人材育成を目的として、アジア各国の大学生が集い地球環境について国境を越えて討議をするフォーラムで、10年間で10か国763名が参加しました。インドネシアは、2016年からインドネシア大学が参加し、計66名が参加しました。

【グローバルユースミドリプラットフォーム (Global Youth MIDORI platform, GYM)】

ASEPの後継プログラムで、国際合同研修をオンラインで実施し、成績上位者数名をCOP16*などの国際会議に派遣しています。2024年の第1回は、インドネシア大学の学生が参加し、好成績を収めました。

*COP16 生物多様性条約第16回締結国会議



ASEP フィールドワーク



COP16 サイドイベント

■顕彰事業

【生物多様性みどり賞】

生物多様性の保全と持続可能な利用の推進を目的に創設し、顕著な環境保全活動が認められる個人・団体を顕彰しています。2010年、元インドネシア環境大臣のエリム・サリム氏が受賞しました。サリム氏は、都市開発計画に世界に先駆けて環境の視点を盛り込み、その尽力が国際的に評価されています。



エリム・サリム氏